

未来をつむぐライフマガジン

FREE PAPER

無料

ご自由にお持ち下さい

ボラみみ

2026年 No.267
01・02月号

あなたのつらい気持ちを
電話で話してみませんか



認定NPO法人 ビフレンダーズ あいち自殺防止センター
電話相談 毎週金曜日 20時~23時 **052-870-9090**

連絡先 住所: 〒462-0014 名古屋市北区楠森町5-2527 ビフレンダーズ あいち自殺防止センター
メール: nagoya@spc-aichi.org

このポスターは、愛知県地域自殺対策強化事業費補助金で作成されています。

か
け
は
し





今号のテーマは、「かけはし」。

人と人をつなぐ——誰もが、当たり前に人とつながり、安心して暮らしていくように。

心と心をつなぐ——そばにいて寄り添い、心の叫びを受け止め、いつも共にいる。

いまと未来をつなぐ——学びや生きがい、自立を支援し、明るい未来を一緒にきずいていく。

懸命に生きているひとたちを、希望へと導く。

そんな「かけはし」となる人たちの物語を、お届けします。

INDEX

2026 1・2

● 決定!! 第12回 ボラミミアワード	P.02
● NPO代表に聞く	P.05
● 苦しみに寄り添える人で在りたいー心が通い合う地域をめざして ここに寄り添うボランティア“かけはし”	P.07
● つむぐひと	P.10
● 第91回企業の社会貢献の現場から	P.11
● あなたの街のボラスポ紹介！	P.11
● CivicTech入門21	P.12
● ボランティア情報	P.13
● ボラミミINFORMATION	P.15



左上から時計回りに
特定非営利活動法人ビフレンダーズ
あいち自殺防止センター
特定非営利活動法人ポパイ
特定非営利活動法人東海つばめ学習会
名古屋入管面会活動「フレンズ」
自立のための道具の会 TFSR Japan



決定!! 第12回 ボラミミアワード



ボラミミより情報局は、人と人、人と活動、NPOとNPO……をつなぐかけはしとして、多様な活動、団体を応援しています。

年に1回、スタッフそれぞれが「イチ推し」の団体を推薦、その中から投票で「ボラミミアワード」を決定しています。受賞団体の活動は、私たちが生きる社会をつぶさに映しています。多くの困りごとや社会課題はすぐに解決できるものではなく、息の長い支援が必要なことがわかります。

皆さんも応援したい団体、これぞと思う活動を見つけて、イベントに参加するもよし、寄付をするもよし、活動に飛び込んでみるもよし！ 2026年、新しい推し活、始めてみませんか。



特定非営利活動法人ビフレンダーズあいち自殺防止センター

心のSOSに寄り添い続ける

ビフレンダーズあいち自殺防止センターは、2011年、大阪・東京などに続き、日本で6番目のセンターとして開設されました。センターの活動は、「友だちとなり、寄り添う」ことを目的とする国際的な自殺防止活動「ビフレンディング」の原則に基づいています。活動を支えるのは、相談員養成の基礎研修を修了した市民ボランティア「ビフレンダー」です。毎週金曜日の20時から23時まで電話相談を受け、苦悩を抱え、自殺を考えている人々の心の叫びを「否定せず、傾聴する」姿勢を何よりも大切に活動しています。電話で会話した相談内容の秘密は厳守、医療や法律の助言、励ましや説得は行いません。安心してつらさを打ち明けられる場づくりを目指し、人々の命と心に静かに寄り添い続けています。

★DATA★

- 創立: 2011年
- ボランティア数: 12人
- 連絡先: nagoya@spc-aichi.org
- URL: <https://www.befrienders-jpn.org/aichi/>



★受賞コメント★

ボラミミアワードをいただき、ありがとうございました！全員で喜んでいます。毎週金曜日の夜、休むことなく活動している私たちのことを応援してくださっている皆さんから、これからも続ける元気と勇気をいただきました。心より感謝しています。今後も「ここに寄り添う活動」を、ずっと進めていけるように努めてまいります。





特定非営利活動法人ポパイ

実験的、福祉的まちづくりにチャレンジ

2006年に名古屋市北区で障がい者デイサービス事業としてスタート、生活介護事業、就労継続支援事業、グループホーム事業等を運営しています。「もーやーこ(=この地方の方言で「分けっこ、持ち合い」などの意味)」をキーワードに、障がい者が社会と交わり、住み慣れた環境で主体的に生活するために多彩な福祉サービスを展開しています。アートや表現活動を障がい者の仕事にすることを目標に、アトリエをつくり、作品を国内外で展示、販売。個性あふれる障がい者アートを広く発信しています。また、音楽やダンスなどの表現活動を通して生きがいと自立を支援。障がい者が「明るく豊かに」暮らせる社会づくりをめざしてチャレンジを続けています。

★DATA★

- 創立: 2006年
- ボランティア数: 繙続的なボランティアはなし
- 連絡先: olive@pop-i.info
- URL: <https://www.mo-ya-co.info>



★受賞コメント★

このたびは、栄えある賞をいただき、誠に光栄に存じます。2005年にNPO法人格を取得し、翌年より事業をスタートさせて2026年で丸20年になる法人です。さまざまな取り組みを展開し、福祉的なまちづくりを実践しています。これからもアートと福祉でたくさんの人と混じり合いながら、うっすら引かれた境界をあいまいにしていきます。



特定非営利活動法人東海つばめ学習会

ひとりでも多くの子どもが望み通りの人生を歩んでほしい

経済格差や貧困の影響で学習機会に恵まれない子どもたちに、無償で学びの場を提供するNPO法人です。現在、東海地域で20か所の教室を運営し、小学1年生から高校生を対象に学習支援を行っています。ボランティア活動の基本は「優先すべきは私生活」で、参加は強制せず、誰もが無理なく続けられる柔軟な体制を確立しています。その結果、会社員や学生、リタイアした方など300人を超えるボランティアが指導にあたることで、完全無料の学習支援を実現しています。多くのボランティアが関わることで、東海地域にとどまらず拡大し続け、「ひとりでも多くの子どもが望み通りの人生を歩むこと」という理念を体現しています。

★DATA★

- 創立: 2018年
- ボランティア数: 300人
- 連絡先: tokai.tsubame@gmail.com
- URL: <https://tokai-tsubame.amebaownd.com/>



★受賞コメント★

このたび、東海つばめ学習会の活動がボラミミアワードとして評価されたことに心より御礼申し上げます。学習支援は、学生・社会人ボランティア、支援者、地域の皆さまの温かな力で続けられています。子どもたちが安心して学び、夢を描き、一步踏み出せる居場所を、これからも地域と共により深く誠実に積み重ねてまいります。



自立のための道具の会 TFSR Japan

錆びた工具が希望に!絆をつなぐ国際支援

「自立のための道具の会」は、眠っている道具を活かすリサイクルと、人々の自立を支える海外協力を目的として活動しています。ボランティアが錆びた工具や刃物などを一つ一つ丁寧に磨き再生した道具を、必要とする発展途上国へ要請に基づき送付しています。同団体の大きな魅力は、道具提供に留まらない点です。現地のNGOと協働し、木工、電気、炭焼き、燻製といった分野で、プロの技術を持つボランティアを派遣。技術指導を通じて、人々の自立と途上国の地域活性化に貢献してきました。継続的な国際支援に加え、東日本大震災や国内の豪雨災害などの被災地支援にも尽力。道具に新たな命を吹き込み、「希望」と「絆」を国内外でつなぎ続けています。

★DATA★

●創立: 1993年 ●ボランティア数: 50人 ●連絡先: 0565-68-3637
 ●E-mail: tools@tfsr.jp ●URL: <http://www.tfsr.jp/>



★受賞コメント★

このたびは私たちの活動を取り上げていただき、素晴らしい賞をありがとうございます。1993年の活動開始以来多くの皆さんのご支援ご協力によりここまで続けてくことができました。これからも地道な活動ではありますが、いただいた要請にできるだけ速やかに対応するよう心掛けて、喜んでもらえるように続けていきたいと考えています。今後ともご支援とご協力をよろしくお願いします。



名古屋入管面会活動「フレンズ」

「人間中心の社会」をめざして

名古屋の入管(入国管理局)に収容された外国人たち一人ひとりと対話を重ね、彼らの声に耳を傾ける団体「名古屋入管面会活動『フレンズ』」。活動を通して見えてきたのは、収容者たちもただ幸せに生きようと懸命になっている、私たちと同じ一人の人間であるということでした。「大きな権力」対「個人」という構造の中で、被収容者の人権が軽んじられることのないよう、フレンズは見守りと支援を続けています。面会を中心に、買い物の代行や残されたご家族のサポートを行うほか、必要に応じて入管に改善を申し入れ、立ちはだかる制度の壁にも立ち向かってきました。思いやりを大切に、温かさと強い意志を胸に「人間中心の社会」の実現を願いながら活動しています。

★DATA★

●創立: 2010年 ●ボランティア数: 4人 ●連絡先: n-al@nifty.com
 ●URL: <https://www.facebook.com/p/フレンズ名古屋-100064799946477/>



★受賞コメント★

フレンズ名古屋は15年前に設立した小さな団体で、今も入管に通う代表とそれを支えるほんの数人で続けています。この小さな取り組みに光を当てていただいたことを心から感謝いたします。外国人排斥の風潮が高まる中、この受賞を励みに運動を続けていく覚悟です。皆さまのご支援をよろしくお願いいたします。

NPO代表に聞く！



特定非営利活動法人 レスキュー・ストックヤード（2002年発足）

『活動を長く続けてこられた秘訣』

レスキュー・ストックヤードは発足以来、以下のことを心掛けてきました。

「理念を貫く」：安請け合いはせず、目的が合致した事業を実施する。

「身の丈に合った活動」：できないことはできないと、焦らず、驕らず実施する。

「スタッフ間の意思疎通」：毎週の事務局会議や年に1～2回の合宿ミーティングにより、互いの事業内容や進捗、課題等を共有する。

NPO業界全体の課題としての、決して十分とは言えない職場環境に加え、災害現場の修羅場と向き合う災害救援NPOとしての厳しい現実が突き付けられる中、我がスタッフはそれぞれの課題に本当によく向き合っていて、誇りにさえ思います。しかし過去には、こうした姿勢がぶれた時期もあり、その時は必ず困難が訪れました。

『活動開始当初と現在で、取り組む社会課題はどう変化したか』

地球温暖化による風水害の増加や、活発期に入ったと言われる相次ぐ地震、そして、この地域でも警戒されているスーパー広域地震への警戒等、「災害」を意識せずにいられない昨今の現状。加えて、少子高齢化、地域の希薄化、コロナ禍を経ての格差がますます広がる社会課題の激変に、ましてや災害が発生した被災地においては、官の限界が露呈され、NPOを含む民への期待が増大しています。特に、災害による直接死はもとより、せっかくいのちが助かっても、長く続く避難生活の中で閑死が後を絶たない課題が深刻化しています。



令和6年能登半島地震
足湯ボランティア活動

『今後の活動展開について』

これまで通り、災害発生時は現場へ出向き、「被災者一人ひとりの生の声」を大切にした支援活動を継続するとともに、こうした現場を目の当たりにしてきた責務として、「いのちと暮らし」をどう守るかについて、その教訓を未災地に伝え続けていきます。また、災害支援は、より多くの支援主体との連携が必要であるため、行政、社会福祉協議会はもとより、多様で多彩なNPO等との「顔の見える関係」、できれば「心の通う関係」づくりに、これまで以上にチャレンジを続け、「本気の連携」の構築に努めていくとともに、次代を担う世代への参画について、若者との対話に励んでいきたいです。



ホームページ：<https://rsy-nagoya.com/>

長年にわたり地域の課題と向き合い続けるNPOが当地域にはたくさんあります。変化する社会課題に対応しながら活動を継続する秘訣、そして次世代へつなげる展望とは。当地域を代表する2つの団体のトップに、これまでの歩みと未来への想いを寄稿いただきました。

特定非営利活動法人 名古屋NGOセンター（1995年発足）

『活動を長く続けてこられた秘訣』

名古屋NGOセンターは、設立後30年を超える老舗のネットワークNGOです。ネットワークNGOとは、様々な市民団体（NPO、NGO、その他）のハブとなり、相談・助言・伴走などを行う団体です。つまり、会員となった組織や個人が活発に活動してこそ、本領を発揮できる他力本願的なNGOと言ってもよいでしょう。

なぜ、30年も続けてこられたのか？それは、この地域の様々な加盟団体が多大な努力をして活動を続けてこられたからとしか言いようがありません。加盟団体のエネルギーを名古屋NGOセンターのエネルギーに換えて活動を継続しているだけです。つまり、“名古屋NGOセンターの活動継続の秘訣＝加盟団体の活動継続の秘訣”なのです。

『活動開始当初と現在で、取り組む社会課題はどう変化したか』

私たちは、地域の市民活動の活性化を目指して活動していますが、近年、この地域のNGO活動が停滞していると感じています。停滞しているというか、小さくまとまっているというか、既存事業を蕭条とこなすだけの状況ではないでしょうか。当センターも同様に、設立当初は活力に満ち新しいアイデアが次々と新規事業を産み、それゆえ、周りの景色が鮮やかにみえました。

コロナ禍以降、主に海外の途上国などを対象とした市民活動に活気が戻っていません。それは、日本国内の長引く経済不況、政治不信、若者の活力低下などの複合作用の結果です。そして、もう一つの要因として、1990年代から2000年にかけてNGO活動を活発に盛り上げてきた先輩世代の方々の高齢化と、次の世代への継承が進んでいないことも挙げられます。こ



の地域の老舗NGOも中小企業と同じで完全に後継者・担い手不足かもしれません。

『今後の活動展開について』

2027年5月、名古屋でアジア開発銀行（ADB）の総会が開催されます。当センターは、これをチャンスと捉えています。ここ東海地方には、アジアを活動拠点にしている海外支援NGOが多数あり、当センターの加盟団体も同様です。しかし、ADBと自分たちの活動との関わりについては、NGOに所属していても知らない人が多いでしょう。ましてや、一般市民の関心はもっと薄いと思われます。

当センターでは、ADBについての勉強会を企画し、加盟団体のみならず無関心層にもアプローチし、ADBについてみんなで議論できたらと考えています。そして、若い世代への橋渡しができたらとも考えています。今後、ホームページなどでADBについての企画を発信していくので、まずは「アジア開発銀行って何だろう？」というところから興味を持ってみてください。

ホームページ：<https://nangoc.org/>

苦しみに寄り添える 人で在りたい

—心が通り合う地域を
めざして



「困っている人を放っておけない」——そんな思いを胸に、人と心をつなぐ活動を続ける井階さん。精神に障がいをもつ方やそのご家族に寄り添い、共に活動する「かけはし」を名古屋市北区で立ち上げて20年。いつも笑顔で、バイタリティあふれる井階さんにお話を伺いました。

原点は友達と日記

私の活動の根っこは、幼稚園の時から一緒だった、知的障がいのある友達との出会いに遡るんです。先生からも頼まれたんだと思うけど、私自身もなんか放っとけなくて、その子のお世話係のような感じで、小学校卒業までいつも一緒にいました。知的障がいのある同世代の子と、ごくごく自然に付き合っていたことは、私が障がい分野のボランティアに引き寄せられた原点かなっていう感じがします。

もう一つ、すごく惹かれるというか、興味があったのは「心を見つめる」ということで、そのきっかけは日記です。小学校5年生ではグループ日誌、6年生では先生が生徒一人ひとりと交換日記をしてくれました。さらに、その頃『アンネの日記』を読んで衝撃を受けて、自分の感じたことや考えたこと、悩みを日記に書くようになったんです。自分を見つめる日記ですね。書きながら、悩みの正体を見つけようとしたり、自分を励ましたり、自分の大事にしたいことを探したり、そういう心と向き合う時間が、自分が生き

ていくためにすごく大事だったし、人の心というものにもすごく関心があったし、大事にしたいっていう思いがありました。その気持ちは、今の活動にも深くつながっていると思います。

一途であることの危うさ

小さい頃から、私はわりと正義感が強かったし、一途なところがあったんです。大学に入り学生運動と出会った頃、軍国少女が描かれた本を読んで、その少女が「まるで私やな」と衝撃を受けました。「自分ではすごく一生懸命に、良かれと思ってやっていることが、大きな流れの中でいうと不正義に協力してしまう危うさを持っているんだな」って気づいたんです。自分なりに人権や正義って何だろうって考えていたつもりだったけど、その一途さが危ういな、「私も気をつけないと、こういうふうに行っちゃう人間だわ」と思いました。この時の気づきは、今の活動のモットーにもつながっています。善意も誠実さも大事です。でも盲目的な「良かれ」は危ない。そこ

にやっぱり裏付け、自分で学んで裏付けをしないと、自己満足に陥るかもしれない。客観視できなくなったりもするし、本当にいい支援にはならない。だから勉強は絶対せないかんと思っています。奥深いし、ここで終わりっていうのがないので、「かけはし」でもグループとしてずっと勉強は大事に続けています。

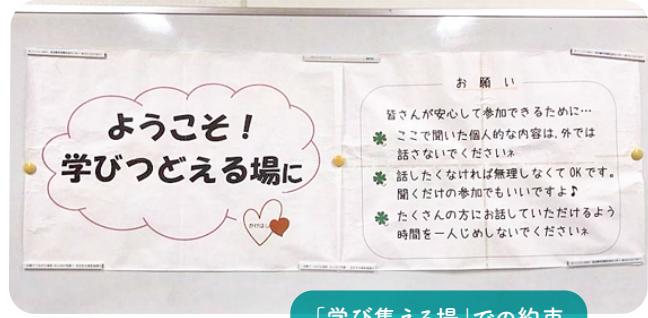
教壇から寄り添う支援へ

奈良で高校教員として教壇に立っていた頃、管理的な指導に抵抗がありました。管理ではなくて、その子がどうしてそういう行動をとってしまったのか、その背後に何があるのか、生徒の背景や気持ちに寄り添った関わりがしたかったんですよね。毎日のように遅刻してくる子には「はよ来なあかんよ」と言うよりは、おしゃべりして関係を築きたいと思って接していました。そんな経験から、じわじわと教育相談に気持ちが向いていきました。

もう一つ教育現場に違和感を覚えたことがあります。私が教師になったのは、「教え子を二度と戦場に送らない」と始まった戦後教育の理念に反して、「君が代」「日の丸」が公に入れられようとしていた変わり目の頃でした。大学時代に反戦、反核、反差別の活動をしてきた私にとって、それに対して黙っているっていうのは自分に嘘つくことじゃないですか。でも、職員会議などで誰も反対しない、私がそんな発言をすると「ああいう会議の場では言わない方がいいよ」と、善意で忠告してくれる先生もいました。私からしたら「なんで言うたら、あかんの?!」という感じですよね。そういうこともあり、高校



立ち上げた頃の写真
その頃は、趣味を生かした活動が多かった



「学び集える場」での約束

の教育現場に少しづつ失望が出てきたんです。

そんな頃、家庭の事情で名古屋に来ることになりました。教師に未練はなくて、カウンセリングやワーク、相談活動をしたいなと思っていました。私はやっぱり、悩んでいる人とか困っている人を放っておけなくて、個別に寄り添っていきたいという気持ちが強くて。私のできることは大したことないですよ。もっと能力も技術もある人はいっぱいいます。でも、見て見ぬふりはしたくないし、専門家じゃないからこそできることがあると思うんです。

「かけはし」のはじまり

「かけはし」は2006年10月に立ち上げて、20年目に入りました。活動を始めた頃は「病院に閉じ込めればいい」という時代の負の遺産が残っていて、精神疾患に対する偏見がまだまだ強かったんです。「地域で当たり前に暮らしていくように」という時代に変わりつつあった中で、社会資源を増やすことも大事だけど、地域住民の偏見を理解していくことが一番大事なんです。その地域づくりの一環でできた「障害者地域生活支援センターないろ(当時)」は個別の相談支援をするだけではなく、心すこやかに暮らせる街づくり、精神障がいの方が安心して暮らせる土壌をつくらなあかんっていう視点を持って、ネットワークを築こうしてくれました。

このネットワーク(後の「メンタルネットきた」)の設立準備の段階で、地域住民のセンターも必要だということでボランティア講座を開き、その一期生が「このまま終わりたくないよね。なんかやりたいよね」と言って結成したのが「かけはし」です。精神保健福祉のボランティアって、何をすればいいんだろうという手探り状態からのスタートでした。初めて



定例会は毎月第4水曜日
情報共有をしながら学び合う

ある日の
「あなたの居場所」



当事者さんのクリスマス会に参加したとき、「この人たち何しに来たんだろう」という視線を感じました。その時、私が誓ったことは「当事者の方も家族さんも、一生背負わなあかん病気、障がいを抱えてはる。だから私は飽きたから辞める、嫌になったから辞める、そういう生半可な気持ちは絶対に自分に許さない」ということでした。

「社会の風を入れる」から「共にいる」へ

「かけはし」の役割は、まずは「社会の風」を入れることでした。結成当時は精神保健福祉の分野だけで固まっていて、閉鎖的だったんです。病院や事業所、家族会といった精神保健福祉に関わる人たち同士も知り合ってはいなかった。そこにネットワークができる、お互いのイベントに行ったり、一緒に学んだりしてつながりができました。その輪の中に専門家じゃない私たちが加わる意味、相談支援ではなく「何でもない話」をすることの意味がとても大きかったんです。

私たちがめざすのは、共にいること、共に楽しむこと、寄り添う一人で在りたいということなんです。病気の人には病気の部分はあるけれど、健康な部分もいっぱいある。私たちができるのは、その健康な部分に関わること。そこがちょっとでも大きくなるように、一緒に喜べる仲間として在りたいんです。それが心のボランティアのいちばん大事な部分だと

思っています。

この「共にいる」関係性を一時的なものではなく、継続的につくっていくために、居場所型の活動を始めました。まずは2017年から2か月に1回開いている「学び集える場」です。その頃の北区には誰でも入れる家族会がなかったんです。そこで、当事者家族なら誰でも精神保健福祉に関する勉強が定期的にでき、さらに安心して話ができる居場所をつくりたくてスタートしました。でも、実際には当事者さんにも好評で、立場は全く関係なく一緒に学び合い、語り合う場になっています。

2022年からは「あなたの居場所」を第2・第4金曜日の午前中に開いています。精神の病気の方に限らず、ちょっと一歩踏み出したい人が気軽に行ける場所。相談したい人も、ゲームや読書、雑談をしたい人も、誰でも来られる居場所です。どちらの活動も「誰でも安心して来られること」を大切にしながら、人と人がつながれる地域を育てていきたいと思っています。

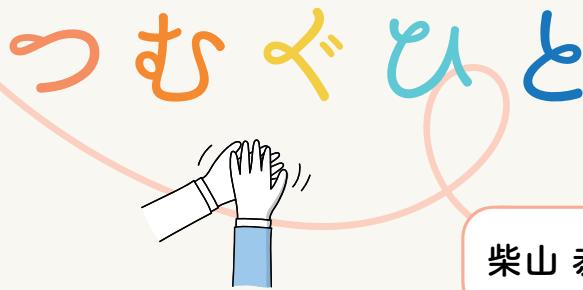
Information

ここに寄り添うボランティア“かけはし”

●お問い合わせ

名古屋市北区社会福祉協議会まで

TEL: 052-915-7435



09

柴山 恭毅さん

NPO法人教員副業コーディネーターまちまち
代表理事

人々の暮らしに寄り添い、地域や社会の課題解決のために、日々活動している人たちがいます。

困っている人々の声、ご自身の体験や感じたことを丁寧につむいで、よりよい明日を実現しようとしている人たち。

そんな、未来を「つむぐひと」に、ご自身の活動や思いについてご紹介いただきます。

先生も、まちの一員として生きる

私は、公立小学校で教員をしながら、教員と地域をつなぐNPOを立ち上げて活動しています。

ある時、「志はあるのにやりがいを見出だせない」と後輩の教員から相談を受けました。教員の離職や休職の増加は深刻で、強い危機感を抱いている最中のできごとでした。

このことをきっかけに、単に業務量を減らすだけでなく、教員が自分らしく力を発揮できる場が必要だと考えるようになりました。学校の外にも、そうした場があるだろうとぼんやり考えつつも、その具体を後輩に示せない自分に、もどかしさを感じました。

そんな折、地方公務員が地域活動に参加できる制度を知り、これを教員にとっても意義ある仕組みにできるのではと考えました。そこで、2024年、教員と地域をつなぐNPO法人「教員副業コーディネーターまちまち」を設立し、活動を始めました。

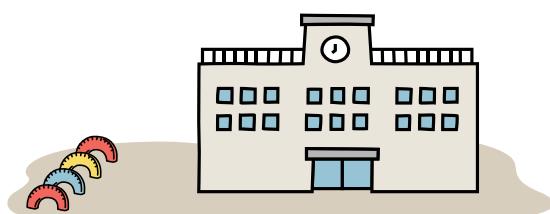
制度はまだ浸透しておらず、自治体によって対応も異なります。私は全国から情報をを集め、実際に市民団体やNPOの活動に参加しながら、教員と地域の双方にとってよい形を探ってきました。発信を続けるうちに、地域活動に関心のある先生方から多くの反響をいただくようになり、同時に、かつての後輩と同じ境遇の先生がこれほどいるのかと驚きました。

学級通信で培った文章力を活かして広報誌を編集する先生、探究学習の経験をもとに地域イベントを開く先生、ヨガ、書道、バスケットボール指導など、教員による学校外での活躍が広がっています。地域と関わりながら自分らしく働く先生方は、生き生きとしています。



最近では、教員と地域をつなぐイベントも開催し、私自身も地域行事の企画に参加しています。地域に目を向けると、魅力的な人や場所が身近にあることに気付かされます。活動を通じて得たつながりを学校や家庭にも還元したいと感じます。

結局のところ、制度や仕組みの根底にあるのは「人と人とのつながり」です。教員が地域の一員として自然にまちづくりに関わる姿を増やしていくことが、私の思い描く未来です。



Information

まちまちの取り組みやイベント情報などは、こちらの2次元コードからご覧ください！



地元企業の社会貢献活動について、各社の担当者に取り組みを紹介いただいております。91回目となる今回は、株式会社東名です。

豊かでより良い社会づくりに貢献する

株式会社東名

中小企業向け光回線サービス・電力小売販売を主力サービスとする株式会社東名（本社：三重県四日市市）は、「すべての人々に感動と満足を提供し続けます」という経営理念のもと、豊かでより良い社会づくりに貢献する企業グループを目指しています。

社内には、従業員を中心とした社会貢献活動チームがあり、全国13カ所の拠点で募金や地域清掃活動、不要文房具・クリアファイルの回収、ペットボトルキャップの回収、地域行事のボランティア参加などの活動を行っています。

・ペットボトルキャップ回収

社内にペットボトルキャップ専用回収BOXを設置しています。昨年度は、全拠点で計約44,000個のキャップが集まり、51人分のポリオ（小児まひ）ワクチンと146人分のBCG（結核）ワクチンの費用に充てることができました。



・地域清掃活動

3カ月に1度、有志で各拠点のオフィス周辺の地域清掃活動を行っています。30分間の活動でも大量のタバコの吸い殻や空きビン、時には大きなゴミを持ち帰ってくる従業員もいます。



参加した従業員からは、毎回前向きな感想が寄せられ、それぞれ気づきがあるようです。



今後も、従業員一人ひとりが日常の些細なことにも目を向け、幅広く社会貢献ができるよう活動を進めてまいります。

株式会社東名 社長室

〒451-0045 名古屋市西区名駅二丁目27番8号

名古屋プライムセントラルタワー8階

TEL: 052-587-2080 URL:<http://www.toumei.co.jp/>

・・・・・ 次回は、株式会社中広をご紹介します。



あなたの街のボラスボ 紹介！

ボランティアやNPOの情報を得ることができる
あなたの街のボランティアスポットを紹介していきます。

田原市民活動支援センター

想いをカタチにして、まちづくりを進めよう！



田原市民活動支援センターは、田原市の市民活動を様々な側面から支援する拠点です。市民活動団体の皆さまの「一緒に活動する仲間を増やしたい」「もっと広報を強化したい」といったお悩みに対応します。ホームページやSNS、情報誌などの情報発信のほか、市民活動団体同士の交流の目的で「しみんのひろば」を開催しています。

「市民活動やボランティアを始めたい」とお考えの方へ、市民活動に関する相談対応や市民活動に関する情報発信も行っています。

田原市民活動支援センターをぜひご活用ください！

■所在地：田原市田原町汐見5番地 田原文化会館内 ■連絡先：TEL：0531-22-1111（内線811）※開設時のみ

■E-mail：shiminkatsudo3507@city.tahara.aichi.jp ■開館日：火曜日・土曜日12:00～16:00

■URL：<https://www.city.tahara.aichi.jp/kurashi/shiminkyodou/1001061/index.html>





「シビックテック」ってご存知ですか？直訳すると「市民技術」とでも言いましょうか。市民や行政とIT技術者が協力しつつ、ITをうまく活かして社会課題に取り組む活動です。2013年にCode for Japanという団体ができた後、「Code for OO」という団体が日本中に80ほど生まれ、各地でシビックテック活動に勤しんでいます。この連載では、名古屋のシビックテック団体Code for Nagoyaの関係者が、いろいろなシビックテック事情をご紹介します。

今号では、名古屋工業大学の白松教授から、ご自身の研究テーマでもある「AI効率化競争の罠」と「人と人の結び目のAI」について、2号連続でお届けします。

AIが人と人をつなぐ「かけはし」に | 前編 |

どんぐりの背比べの時代がやってくる？

「ASI（人工超知能）」って聞いたことがありますか？人間の知能を超えるAIのことです。もし将来ASIが実現したら、私たち人間同士の能力差なんて、どんぐりの背比べになってしまうかもしれません。

今、世界中で「もっと高性能なAIを使えば勝てる」という競争が激しくなっています。でも本当にそれでいいのでしょうか？

競争ではなく、つながりのために

私は、AIを競争の道具ではなく、人と人をつなぐ「かけはし」として活用したいと考えています。人が中心の社会で、AIは脇役として人々を支える存在であってほしいのです。

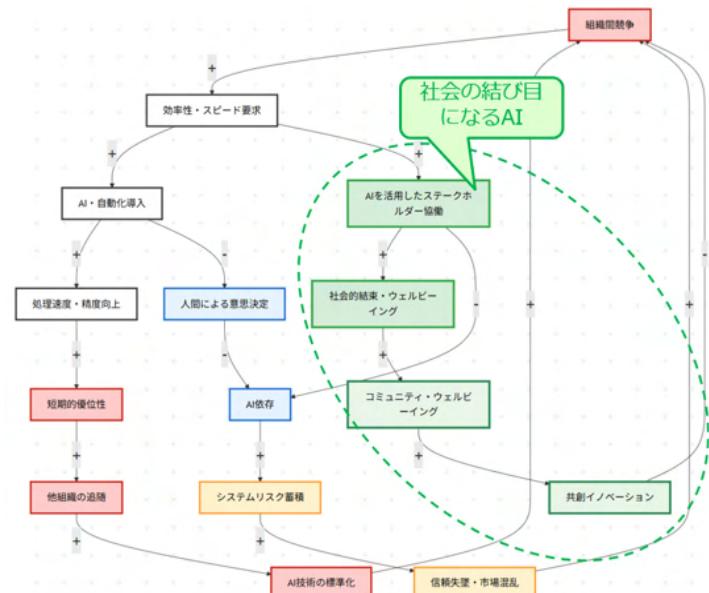
たとえば下の図は、AI導入による効率化競争が激化し、人間の意思決定がAI依存でリスクを抱える流れを示しています。ここで怖いのは、「人間同士でじっくり話し合って決めたい」と思っていても、競争に負けないためにAIに頼らざるを得なくなる「競争の罠」です。誰も望んでいないのに、AIが決めた通りに動く社会になってしまうかもしれません。

でも、図中の緑の点線で囲った部分に注目してください。AIを競争の道具ではなく、人々の協力を支える道具として使えば、「コミュニティ・ウェルビーイング」や「共創イノベーション」という好循環が生まれ、効率性とみんなの幸せの両方を実現できるという仮説です。

AIで人々をつなぎ、幸せに生きられる社会を一人ひとりの暮らしに当てはめて考えてみましょう。

私たちは誰しも、得意なことと不得意なことがあります。能力的にデコボコがあるものです。そんな時、AIが寄り添って足りない能力を補いつつ、人とつなげてくれたたらどうでしょう？コミュニケーションが苦手な人には、相手の気持ちを理解する手助けをしたり、自分の思いをうまく伝える方法を提案したり。その上で、同じ関心を持つ人や、助け合える人とつなげてくれたなら、素敵だと思いませんか？

私が目指しているのは、一人ひとりが自分らしく幸せに（Well-being）に生きられる社会です。AIを、それぞれの個性を尊重しながら人と人をつなぐ「かけはし」として活用する。そんな使い方を、シビックテック活動を通じて一緒に考えていきたいと思っています。



ボランティア情報

ホームページにも情報満載！
<http://www.boramimi.com>

ボランティア初めの一歩 大切なマナー&ルール

- 新型コロナウィルスの状況等により、変更・中止となる場合もあります。必ず事前に各団体にご連絡ください。
- 希望のボランティア先へ連絡するときは、まず名前を名乗って、用件（ボランティアに参加したい・詳しく聞きたい）を正確に伝えましょう。
- ボランティアへの参加当日、急用で参加できなくなったときは、必ず電話連絡を。また、約束の時間は守りましょう。



餅つき会 ボランティア大募集！



津善者

名古屋市
緑区

毎年恒例の「風の会 餅つき会」です。なかなか体験できない本格的な杵と臼を使った餅つきです。ふきのとうの利用者さんと一緒に餅つきを楽しみませんか？ボランティア経験者の方も、ボランティア初めの方も大歓迎です。つきたてのお餅は格別に美味しいですよ！ご都合のつくお時間だけで結構です。

- 日 時：1月17日（土）9:30～14:30
場 所：名古屋市緑区大高町字一色山23
その他：電話・FAX・Eメールにてお申込みください。
【参加費等】お食事される方は400円
【持ち物】タオル・飲み物など
【子ども連れでの参加】可能
【申込み切】1月12日（月）【定員】10名

問合せ

NPO法人風の会 ふきのとう

担当：中井・山口

TEL/FAX:052-625-3212（平日10:30～16:00）

E-mail:kazenokai@wh.commufa.jp



AHI会報誌発送ボランティア募集



国際
まち
づくり

愛知県
日進市

会報発送作業で、ラベル貼り、チラシの封入作業などをお願いします。気軽で簡単にできるボランティア体験です。

- 日 時：1月31日（土）10:00～16:00
場 所：日進市米野木町南山987-30
その他：電話・Eメールにてお申込みください。
【交通手段】自動車可（駐車場あり）
【最寄り駅】名鉄豊田線「黒笹」徒歩15分
【子ども連れでの参加】可能

問合せ

公益財団法人アジア保健研修所（AHI）

担当：木村・林

TEL:0561-73-1950（9:00～17:00）

E-mail:info@ahi-japan.jp



利用者さんと楽しく活動しよう！



津善者

愛知県
一宮市

- 日 時：平日9:00～16:00
場 所：一宮市萩原町東宮重字蓮原48
その他：電話・FAXにて事前にお申込みください。
【交通手段】自動車可【最寄り駅】名鉄尾西線「苅安賀」徒歩20分、名鉄本線「名鉄一宮」・JR東海道本線「尾張一宮」よりバス「萩の里」徒歩1分【持ち物】上履き

問合せ

一宮市立はぎわら生活介護センター

担当：大橋

TEL/FAX:0586-69-2300（平日9:00～17:30）

E-mail:hagiwaraseikatukaigo@helen.ocn.ne.jp



ALOE(海外生活体験のある女性の会)会員募集中



国際

名古屋市
中区

海外で生活をしたことのある女性の集まりです。現地で実際に見聞きした人々の生活や、彼等との交流から学んだボランティア精神を日本の社会でも活かせたらという思いで、1985年春に誕生しました。主な活動は、日本語教室、海外前後赴任サポート、国際交流イベント参加や開催などです。

- 日 時：【例会】第3木曜日12:30～（7・12・3月は10:30～）
【日本語教室】毎週木曜日 10:30～12:30 他開催スケジュールはHPをご覧ください。
場 所：あいち国際プラザ 名古屋市中区三の丸2-6-1
その他：2次元コードの「お問い合わせ」または、Eメールにてお問い合わせください。【参加費等】年会費3000円【資格、条件等】海外生活1年以上の女性

問合せ

ALOE(海外生活体験のある女性の会)

担当：小林

E-mail:aloenagoyavol@gmail.com



岐阜県御嵩町での森林ボランティア活動



環境

岐阜県
可児郡

岐阜県御嵩町にあるヒノキ林の枝打ち・間伐を、月に1回(第2土曜と翌日の日曜)に行っています。また、木工や製紙原料としての出荷など、間伐材の利用にも取り組みます。御嵩町は、名古屋地区の水源となっている木曽川の上流にあります。私たちの「水源の森」の整備にぜひ力を貸してください。

■日 時: 1月11日(日)10:00~16:00ごろ

■場 所: 御嵩町「中公民館(なかこうみんかん)」駐車場集合
岐阜県可児郡御嵩町中2171-1

■その他: Eメールにて一度ご連絡ください。

【参加費等】保険費用として100円

【持ち物】軍手、山歩きができる服装(長袖)、昼食

【子ども連れでの参加】可能 【定員】30名・先着順

みたけ・500万人の木曽川水トラスト

問合せ

担当:市村
TEL:052-735-5453(平日9:30~18:00)
E-mail:mitake500npo@yahoo.co.jp



愛知県
尾張旭市

青少年

まち
づくり

青少年

まち
づくり

青少年

まち
づくり

勉強を教えるのではなく、一緒に答えにたどり着くような、どなたにでもできるサポートです。子どもたちに寄り添い、共に楽しむ企画に興味がある、遊び直し、教育や福祉に興味がある方におすすめです。併設の子ども食堂のお手伝いも募集中。※「尾張旭市まちづくり活動貢献学生認定制度」の対象です。

■日 時: 土曜日 8:30~16:30(午前の部・午後の部)

※毎回参加できなくとも、数時間の参加でも構いません

■場 所: 多世代交流館いきいき(尾張旭市公共施設)

尾張旭市稲葉町1-41-1

■その他: 電話、Eメールにてお申込みください。交通費実費支給、子ども食堂の昼食付き。地下鉄東山線「藤が丘」、名鉄瀬戸線「尾張旭」より送迎あり。【持ち物】筆記用具

NPOしみんシップnet

問合せ

担当:伊藤

TEL:070-3144-6485

E-mail:shiminship@gmail.com



一宮市エリアでのまちづくりスタッフ募集



まち
づくり

団体
支援

愛知県
一宮市

一宮市でのまちづくり活動に関わりませんか。チラシ配布などの簡単な軽作業から、イベントの企画・運営、デザイン、開発まで、様々な参加の形があります。「杜の宮市」「まちの宮市」「ラブたな」などのイベント、「一宮市市民活動支援センター」や「com-cafe三八屋」など、様々に活動しています。

■日 時: 木曜日19:00~21:00の定例ミーティング、その他随時(自由参加)

■場 所: i-ビル・一宮市市民活動支援センター 一宮市栄3-1-2
プリンスアレイ、本町商店街 一宮市本町3-3-30
com-cafe三八屋 一宮市本町4-1-9

■その他: 2次元コードの「まちズン」ページからお申込みください。
【定員】20名ほど

NPO法人志民連いちのみや

問合せ

担当:星野

携帯:090-2265-9188(出ない場合は留守電を)

E-mail:info@shimin.org



名古屋市
中川区

国際

まち
づくり

国際

まち
づくり

国際

まち
づくり

■日 時: 1月4日(日)・11日(日)・18日(日)9:45~12:00

■場 所: 中川区社会福祉協議会 研修室・調理室・ボランティアルーム
名古屋市中川区小城町1-1-20

■その他: Eメールでお名前、連絡先(お電話またはメールアドレス)、ご住所(町名まで)、参加希望日をお知らせください。
【持ち物】筆記用具 【子ども連れでの参加】可能
【定員】1~2名(1日あたり)

なかがわにほんごサロン

問合せ

担当:おざき

TEL:070-5642-2716

E-mail:nihongo.nakagawa.moriyama@gmail.com



NPO法人・一般社団法人
設立・会計・税務等の支援をします
お気軽にご相談ください

サカエ税理士法人 税理士・公認会計士 遠島敏行
名古屋市中村区黄金通2-54 TEL:052-482-6600
URL : <http://www.sakaetax.com>
<http://www.seturitu-unei.com/>
E-mail : info@seturitu-unei.com

地域に根差す 社会貢献企業へ

2021年2月 SDGs宣言

ニーズに応える印刷会社

デジタルコンテンツ・AR(拡張現実)等

オフセット印刷 セキュリティー印刷
商業印刷全般 金券、商品券、証明書等

防災マニュアル・飲料水

菱源株式会社 <https://hishigen.co.jp>



〒490-1144 愛知県海部郡大治町西條松下75
TEL:052-444-2323 FAX:052-444-2636
【東京営業所】TEL:03-5577-5686
●菱源株式会社は「ボラのみ」を応援しています。

ISO14001: 2015認証取得





新規・継続会員登録の方々 (順不同)

■団体正会員:

【継続】●特定非営利活動法人志民連いちのみや様

●夢喰人様

■個人正会員:

【継続】●三木 絵里子様 ●金 源道様 ●谷口 知子様

●小倉 和雄様 ●匿名1名様

■法人賛助会員:

【継続】●社会福祉法人ラ・エール様

●社会福祉法人 大森福祉会 大森授産所様

■団体賛助会員:

【継続】●特定非営利活動法人白働く様

■個人賛助会員

【継続】●西川 博勝様 ●三谷 洋一様 ●小池 征司様

●林 香菜子様 ●匿名1名様

【新規】●増田 いずみ様

■寄付

●増田 いずみ様 ●匿名30名



「ボラみみ」配布先

— 詳細はホームページにて掲載中! —



●WEBより

<http://www.boramimi.com/haihu/>

●携帯より



QRコード



みんなの声

●NPOしみんシップnet

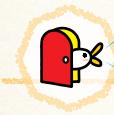
ボラみみを見て参加してくれた方は積極的に活動に取り組んでくれて本当に助かっています。
今後ともよろしくお願ひいたします。

●自立のための道具の会 TFSR Japan

お世話になっています。ボラみみさんを見ている人はたくさんいらっしゃるので、今後も掲載したい。

●特定非営利活動法人風の会 ふきのとう様

いつもお世話になっております。ボランティアの問い合わせがとても少なくなりましたが、掲載を続けていれば目に留まることもあるかもしれません。今後とも掲載を継続していきます。
よろしくお願ひいたします。



編集後記



『ボラみみ』の編集チームも、時代の流れをくんだ転換期を迎えています。変化のときは、なにかと忙しさに飲み込まれがちですが、編集チームは穏やかに移行しているようです。「聞く力」と「思いやり」を持つ人たちの集まりだからこそ、変わりゆく状況にも柔軟に対応できる力があるのかもしれません。テクノロジーや世界情勢など、千変万化する時代の中で、一呼吸おきながら心にゆとりを持ち、移り変わりに向き合える自分でいたいと改めて感じました。



次号予告

次号のテーマは 「つたえたい」。

2026年3月1日発行予定です。お楽しみに!



センター主催講座・イベントのご案内

1/28 [水]

NPO講座「NPO法人設立のしかた編」

→ 14:00~16:00

(1月11日受付開始)

「NPO法人ってなに?」「どうやってNPO法人を設立するの?」など、NPO法人の設立前に準備するものや書類作成のポイントを学べる講座です。申請書類をチェックしているスタッフが説明します。

NPO法人の設立を考えている方はぜひどうぞ。

■定員: 30名 ■参加費: 500円 ■講師: 市民活動推進センター職員

2/13 [金]

NPOのための講座「NPO会計初級講座～基礎・決算編～」

→ 13:30~15:30

(受付中)

NPO法人の会計は、組織の活動を支える大切なしきみのひとつです。

この講座では、NPO会計の基本から、財務諸表の読み方、「NPO法人会計基準」に沿った決算書類の作成まで、実務に役立つポイントをわかりやすく解説します。

また、会費や寄附金、事業費と管理費の区分など、NPO特有の会計処理や注意点についても取り上げます。初心者の方はもちろん、実務担当者や法人化を検討中の方にもおすすめの講座です。

■定員: 20名 ■参加費: 1,000円 ■講師: 橋本 俊也氏(税理士)

講座受講のお申込みは、窓口・電話・FAX・電子メールにて受付けます。電子メール・FAXでお申込みの際は、**講座名・氏名・電話番号・FAX番号・所属団体・参加動機**をご記入ください。名古屋市内に在住、在勤、在学の方、または名古屋市内で活動している(活動する意思のある)個人・団体を対象とします。詳しくは、当センターのホームページをご覧ください。

※定員に達した時点で、締め切らせていただきます。ご了承ください。

■NPOのためのアドバイザー相談【参加費: 無料、要申込】

内 容	日 程	担当アドバイザー
設立・運営	1/22 [木] 16:00 ~	織田 元樹(ボラみみより情報局 NPOアドバイザー)
会計・税務	1/23 [金] 10:00 ~, 11:30 ~	黒田 朱里(公認会計士・税理士)
会計・税務	1/27 [火] 10:00 ~, 11:30 ~, 14:00 ~, 15:30 ~	足立 勝彦(税理士)
会計・税務	2/6 [金] 10:00 ~, 11:30 ~	堀尾 博樹(税理士・行政書士)
会計・税務	2/13 [金] 16:00 ~	橋本 俊也(税理士)
設立・運営	2/20 [金] 16:00 ~	織田 元樹(ボラみみより情報局 NPOアドバイザー)

問合せ
申込先

名古屋市市民活動推進センター
住所: 〒460-0008 名古屋市中区栄三丁目18番1号
ナディアパークデザインセンタービル6階
電話: 052-228-8039 FAX: 052-228-8073
電子メール: npo@sportsshimin.city.nagoya.lg.jp
URL: <https://www.n-vnpo.city.nagoya.jp/>



スタッフの つぶやき

スタッフ: 伊藤

あけましておめでとうございます! 子どもの頃憧れた21世紀も、気がつけば四半世紀を過ぎました。スマホもAIもすごい時代ですね。この文章も「楽しい感じにして」とAIに整えてもらいました。今年はAIに使われるより、使いこなす人を目指します。皆さんにとって、笑顔あふれる一年になりますように!



新しく認定NPO法人になった団体をご紹介します！

団体名 名古屋市里親会こどもピース

- 主たる事務所:名古屋市東区
- 主たる活動分野:子どもの健全育成を図る活動
- 認定期間:令和7年10月1日から令和12年9月30日まで



Q:どんな活動をしているのですか？

A:私たちは、里親家庭が孤立しないよう、里親同士のつながりを築き、支え合うことを大切に活動しています。主に里親サロンの運営や先輩里親による家庭訪問を行い、子育ての喜びや悩みに寄り添っています。また、キャンプやクリスマス会などの季節行事を通じて、里子や養子同士の交流も育んでいます。さらに研修会や里親制度の普及啓発活動にも取り組み、子どもたちが安心して育つ環境づくりを行政や関係機関とともに進めています。

Q:なぜ認定を取ろうと思ったのですか？

A:里親制度は、親と暮らせない子どもを社会でお預かりし、里親家庭で養育する取り組みです。子どもたちが安心して「ここ」で暮らすために、まずは私たち里親会が地域の中に根付き、知ってもらい、多くの人にいろいろな面で支えてもらうことが必要だと考えています。認定を取得することで里親会の信頼性が高まり、寄付も集めやすくなり、社会で子どもたちを支える環境を整えられると考えました。



Q:これから認定NPO法人を目指す団体にアドバイスをお願いします！

A:認定取得はハードルが高く感じるかもしれません、私たちは「認定・指定NPO法人取得支援」を活用して、会計の専門家に相談に乗っていただき、寄付者名簿や規程などを整えながら準備を進めました。時間はかかりますが、その過程で組織として当たり前に備えておくべき姿が整ったと実感しています。認定取得はゴールではなくスタートです。市民活動推進センターの方も丁寧に教えてくださるので、ぜひ一歩踏み出してみてください。

「名古屋市里親会こどもピース」についてのさらに詳しい情報は、こちらをご覧ください。

- ホームページ:<https://nagoya-satooya.com/>
- TEL:052-933-6446 ●FAX:052-325-7698
- E-mail:kodomopeace@nagoya-satooya.com



9・10月の設立認証NPO法人

名 称	所在区	主な活動分野
アパ	東区	保健・医療・福祉
泳愛倶楽部	千種区	学術・文化・芸術・スポーツ
yooTH	天白区	子どもの健全育成
COPIN	東区	保健・医療・福祉
BEACH TOKAI	緑区	学術・文化・芸術・スポーツ
あいち健康長寿福祉会	中村区	保健・医療・福祉



10月末現在の所管法人数



認証法人数：892法人

認定法人数：33法人

特例認定法人数：2法人

「ぼらマッチ！なごや2025」を開催しました！！

2025年11月29日、愛知大学名古屋キャンパスにおいて、“ボランティアをしたい人”と“ボランティアをしてほしい団体・施設”が交流を深め、マッチングを応援するイベントを開催しました。

前半は、社会貢献・ボランティア活動をしている人たちによる「ぼらトリーーク！」。4名の方が登壇し、ボランティアを始めたきっかけや、市民活動に対する思いなどをお話しました。ボランティアを始めたきっかけは様々でも、長く続けるためには、楽しく、ゆるくつながること、頑張りすぎないこと、上下の関係ではなく、横の関係が心地よいことなどの共通点がありました。

これからボランティアを始める方だけでなく、すでに活動している方にとっても、参考になるお話でした。



小塚 由樹さん
(シオン株式会社
葬祭部経営戦略室
シオン俱乐部社会貢献担当)



鶴見 菜那香さん
(愛知大学Aivo
(ボランティアサークル))



神田 浩史さん
(NPO法人泉京・垂井)



宇佐美 歩さん
(NPO法人東海つばめ学習会)

後半は、参加32団体・施設がブースを出展し、活動をPRしながら、ボランティア先を探している方と直接お話をしました。実際に、やってみたいボランティア活動と出会えた方も多く見られました。

他にも、モルック、点字、難聴者支援ボランティアの体験コーナー、介助犬について学ぶワークショップ、ボランティア入門講座、相談コーナーや学生向けおしゃべりコーナーなどが設けられ、多くの方が参加しました。

ご来場いただいた皆さん、団体・施設の皆さん、ありがとうございました。



【主催】名古屋市・名古屋市社会福祉協議会 【企画・運営】ぼらマッチ!なごや企画会議

愛知大学 ボランティアセンター、愛知大学Aivo、愛知学院大学 社会連携センター、愛知学院大学AGUボランティアセンター、愛知淑徳大学 コミュニティ・コラボレーションセンター、愛知淑徳大学 学生団体らぶ(てん)、名城大学 学務センター、名城大学ボランティア協議会、名古屋学院大学 社会連携センター、株式会社デンソー、特定非営利活動法人名古屋NGOセンター、特定非営利活動法人HAPPY PLANET、名古屋市青少年交流プラザ ユースクエア、名古屋市、社会福祉法人名古屋市社会福祉協議会、特定非営利活動法人ボラみみより情報局／順不同

なごや

市民活動通信

2026
1・2月号
No.121
無料



市民のちからで
いきいきなごや

「なごやNPO応援事業」たくさんの応援、ありがとうございました

なごやNPO応援フェス
(2025.10.19)

ナゴヤアドベンチャーマラソン
(2025.11.30)

「なごやNPO応援事業」とは、社会課題の解決に重要な役割を果たしているNPOの活動を応援するため、市民とNPOが交流できるイベントを通して、市民の皆さんに「NPO」や「ボランティア」について知っていただき、チャリティなどを通じてNPOを応援する事業です。

●なごやNPO応援フェス @Hisaya-odori Park テレビヒロバ

PRブースやチャリティイベントを通して、市民とNPOが直接交流するイベントです。NPO13団体が活動内容や想いをPRしました。

名古屋のプロバスケットボールチームのチアリーダー、ダイヤモンドルージュ(名古屋ダイヤモンドドルフィンズ)とFEgirls(ファイティングイーグルス名古屋)がNPOを応援するパフォーマンスを行い、子どもたちがチアリーダーと一緒に踊るチアダンス体験をしました。また、チャリティシュート体験と題し、来場者がバスケットゴールに40秒間で何本のシュートを決められるかにチャレンジして盛り上がりました。

約3,700人に立ち寄っていただくなど、多くの市民の方にNPOの活動を知っていただくことができました。



●ナゴヤアドベンチャーマラソン @庄内緑地公園

ジョギングや長距離走の愛好者が集う、フルマラソンのチャリティ大会です。NPO8団体がブース出展をはじめ、給水提供や走路誘導など、ボランティアスタッフとして、大会の運営に協力しました。大会には、2,800人以上のランナーが参加し、参加費の一部がチャリティとして、NPOの活動資金になりました。



※この冊子は、「なごや市民活動通信」と、「未来をつむぐライフマガジン『ボラみみ』」の合冊です。

■発行日: 2026年1月1日

●「なごや市民活動通信」のお問い合わせ

■発行部数: 9000部

名古屋市市民活動推進センター TEL 052-228-8039

●「ボラみみ」のお問い合わせ

特定非営利活動法人ボラみみより情報局 TEL 052-228-7824

印刷: 菊池株式会社 ©名古屋市市民活動推進センター 2025 禁・無断転載